

美術科

▶「OASIS ARTISTS PRODUCE 2010」に学生5名が参加

iichikoアトリウムプラザで12月20日～26日まで開催された「OASIS ARTISTS PRODUCE 2010」に美術科2年の稲垣由紀さんと入江真梨子さん、専攻科造形専攻1年の清水志保さん、KON-NABEこと近藤絵里奈さん、渡邊沙織さんの4組5名が参加しました。開催期間のクリスマスに合わせ「プレゼント」のテーマで作品を制作し、KON-NABEは「それぞれの専門である陶芸と染色の特色を生かし、様々な人に広く受け入れられる作品をつくりたいと考え、異素材を組み合わせた共同作品が出来上がった。」とコメント。アトリウムプラザを訪れる人々へのクリスマスプレゼントとして作品を展示しました。



▶音楽科コンサートシリーズ、コース別演奏会始まる

今年から新たに始まったコース別演奏会の第1回、ピアノコース演奏会（＝写真）が11月24日、iichiko音の泉ホールで開かれました。2台ピアノ、また2台ピアノ8手（4人）といった珍しいアンサンブルまでヴァラエティーに富んだプログラムで、ピアノの新たな魅力いっぱいの演奏会となりました。12月15日には管弦打コース演奏会が開催され、各種のアンサンブルからオーケストラまで、クリスマスの曲も含めて、音楽の楽しさ満載の演奏会でした。



11月24日ピアノコース演奏会

音楽科

国際文化
学科

▶英語スピーチコンテスト開催

12月15日、本学で英語スピーチコンテストが開催されました。今年度は、「Why Do I Study English?」をテーマに、7名の出場者が5分程度のスピーチを英語で行いました。

出場者はそれぞれ、スピーチの中で英語を学ぶ理由を挙げていましたが、なかには海外での体験、クラブ活動などで感じたことや将来の夢を語る内容もありました。評価基準として、構成などの内容、発音や文法などの英語力、暗記やアイコンタクトといった語り方の大きく3つに分けて審査され、国際文化学科2年の佐々木千波さんが優勝しました。5位までの入賞者には賞状が贈られ、また参加者全員にの図書カードが贈られました。

今年は参加しなかった学生も、来年度はぜひ英語スピーチコンテストに参加してみてください。また観客として、ぜひ多くの学生に友達のスピーチを聴きにきてほしいと思います。



▶スローライフ講座を開催しました

11月27日から12月19日までの毎週末、本学で開催した公開講座「スローライフ講座」（全5回）。講師に竹田市で加工所や農家民泊を営まれている方々をお招きし、受講者は一般と本学の学生を含めて各回約30名が参加しました。味噌玉、とうきびおこわ、ゆでもち、餅つき、うどん打ちなどの料理体験を中心に、時間をかけて贅沢に過ごすライフスタイルの秘訣をたくさん話していただきました。

レシピなどをまとめた講座の詳細は、竹田での農家民泊や農業体験などを学生目線で綴ったホームページ「たけたみつけた。」(<http://cis.oita-pjc.ac.jp/taketa/>)に掲載しております。ご覧ください。

情報
コミュニケーション
学科学長
コラム

中山 欽吾

「過疎と向き合う学生たち」

大分市への人口集中が進み、他の地域では過疎化が進んでいます。そんな地域に、本学の学生たちが出かけに行く話題が続いています。最近では情コミュ学科の学生たちが食育ツーリズムで竹田市の農家に泊めてもらい、早朝のトウモロコシの収穫を経験したのですが、その後も交流が続いており、最近では美術科の学生も参加してブログが開設されました。

音楽科には、熊本県境に接した日田市上津江町にある児童数32名の上津江小学校から、本物の音楽を生徒に聴かせたいという申し込みがありました。子供たちはお互いの家が離れていて下校すれば家族以外に話し相手がないという厳しい土地柄ですが、当日は「現役+OG」による弦楽合奏に、保護者のみならず周辺の地域から百名以上の住民がかけつけて、児童も参加しておもちゃの楽器で合奏する『おもちゃの交響曲』など、工夫を凝らしたプログラムを楽しみました。子供たちの心に一生残る思い出になった

と、後日校長先生からお聞きしました。児童のほぼ全員が参加した太鼓の見事な合奏や、給食室で子供たちと一緒に食べた昼食の味と共に、学生たちにとっても有意義な1日となりました。

美術科は、古くから歴史を刻んだひなびた温泉郷、宝泉寺が舞台の「ふるさとスケッチ」です。素晴らしい自然を生かしながら、学生たちの知恵で魅力ある町づくりにつながれないかという呼びかけにこたえたものでした。美術科専攻科の学生たちは初冬の清冽な空気の中でスケッチをしたあと、温泉に一泊して旅館組合の方々と交流をしました。よい成果が得られることを願っています。

地域に住む人たちとその地に立脚する大学との交流は、大学側から出た企画（アウトリーチ）に留まらず、このような住民側の発想によるものは、より深いレベルで交流ができるのではないかと期待が深まる経験でした。

似顔絵 / 小野 智子
(専攻科 造形専攻1年)

連載

美術科 美術専攻2年 福島 壮太

世界一周旅行について

みなさんは、世界一周を夢見たことはありますか？

こんにちは、僕は美術科2年生の福島壮太というものです。僕は8月2日から10月20日の80日間で世界一周旅行に行ってきました。「ピースボート」という船をつかって日本を出た僕の旅の仲間は1000人。ゆっくりゆっくり船の中でそのたくさんの仲間とたくさんの時間を共有し、たくさんのものを得たので今回はそのことについて紹介します。

船の中は大きな学校プラス小さな町といった感じで、多くの水先案内人（池上彰さんや、高橋歩さんなど）の講演や、乗船者の特技を生かした様々な企画であっちもこっちも楽しそうに退屈することはまずなかったです。ですが、もちろん参加は自由なので、一日中バーや、プールでのんびり過ごすこともできました。

船に乗っている人は年齢も職種もバラバラ。定年退職したご年配の夫婦から、

1人で乗ってきた小学5年生の男の子。もちろん僕と同年代の人もたくさんいました。

夢のような贅沢で不思議な空間にはじめは戸惑いを隠さず、なんだかふわふわしていましたが、それは他のみんなも同じで、次第にみんな打ち解ける事が出来て、旅の中盤に差し掛かったころには、みんな家族のようになっていました。想像してみてください。そんな素敵なお家族と食事したり、お酒を飲み交わしたり。夢や経験、世間話や悩みを語り明かし、怒り、涙して、友情を感じ、恋をして、星や虹に思いをはせる。そんな日が毎日毎日。昨日も楽しくて今日も素敵。明日を夢見て眠る。そんな素晴らしいことが世の中にはあるんです。

もちろん旅の仲間とは、帰ってきた今も繋がっています。まだまだ書きたいことは書ききれないくらいにありますが、それはまたの機会にて。一生の宝物をつくりみなさんも旅を試してみませんか。

(2回目に続く)



[Photo: Kameda Ulala / PEACE BOAT]



[Photo: Kameda Ulala / PEACE BOAT]